

春の交通安全運動を実施

新入学・進学を控え、「平成22年度春の全国交通安全運動出発式」が4月6日、町役場大会議室で開催されました。当日はあいにくの雨模様でしたが、たくさんの方が集まりました。今回は「目でかくにん音でかくにん てもたかく」を共通スローガンと位置づけ、子供と高齢者の交通事故防止などを目標に、4月6日から15日までの10日間、町内各地で立哨や広報活動などの運動が展開されました。



平成22年度コミュニティ助成事業決定通知式

町はこのほど、宝くじの普及広報事業である「平成22年度コミュニティ助成事業」における助成団体として翁長自治会(仲宗根武会長)を決定し、4月16日に通知式を行いました。仲宗根会長は「同事業を活用して自治会内の放送設備を改善することで、自治会からの連絡や緊急の連絡に活用し、コミュニティ活動に役立てたい」と話していました。



中学硬式野球で西原勢が大活躍!

3月27日から3日間開催された「第12回ポニーリーグ(中学硬式野球)沖縄大会」で、町内在住の選手が7人所属する島尻ベースボールクラブが初優勝を飾り、町へ優勝報告に訪れました。島尻ベースボールクラブは普段から兼久のグラウンドで厳しい練習を重ね、大会ではその成果をいかに発揮できたとのこと。「今後も練習を重ね、頑張りたい」と抱負を話していました。



町の墓地整備基本計画について答申

町墓地整備基本計画策定委員会(赤嶺政信委員長)は、町が平成21年12月25日に諮問した事項について、3月26日に町長へ答申を行いました。同計画は町内の今後の墓地需要への対応、既存墓地対策、無許可墓の対策等についてまとめられており、その内容について委員会から基本方針が示されました。上岡町長は「会議と住民説明会を重ね、十分に審議された方針であり、今後は同計画に基づき墓地行政に取り組みたい」と述べました。



伊集貴也君がバスケのU-18トップエンデバーに選ばれる!

興南高校2年の伊集貴也君(字小波津)が、日本バスケットボール協会の2009年度U-18男子トップエンデバーに選ばれました。トップエンデバーには、全国から18歳以下の有望選手38人が選ばれ強化合宿に参加、国際大会の日本代表を目指します。坂田小の3年からバスケを始めた伊集君は、西原中、興南高校とバスケット部に所属、ポジションはシューティングガードで、得意プレーはカットイン。井上公男監督は「小さい頃からバスケットセンスに長けていた。メンタル面も強くなっており、今後が楽しみな選手」と評価。伊集君は選抜に喜びを表しながら、「身長差をスピードでカバーしていく」と意気込み、「将来の夢もバスケット選手。bjリーグやJBLで活躍したい」と話していました。



内間御殿の国指定に向けて

上岡町長は3月16日、内間御殿の国の文化財指定に向け、地権者との合意が得られたと発表しました。これで指定に向けた申請要件はほぼ整い、今秋予定されている国の文化審議会の答申を待つこととなります。内間御殿(字嘉手苅地内)は、金丸(尚円王)が内間領主に任ぜられた際の旧宅と伝わる地に建てられた神殿で、王府が建てた東江御殿と地域住民が建てた西江御殿などからなり、県内でも他に類をみない拝所といわれています。



婦人会フェアを開催

町婦人連合会(長崎信子会長)は、町内の婦人の連携と親睦を深め、知恵と工夫を生かして、時代のニーズに即した元気な婦人会を目指そうと、「第1回環境美化、食育、健康フェア」を3月21日、町中央公民館にて開催しました。買い物カゴや古着など、リサイクルや地産地消をふまえた手作りの展示・販売のほかに、食育に関するパネル展や健康体操、EMポカシ作りも実演されました。仲村広剛さん(字内間)は「おいしいジュシーが売られていて、寄ってみて良かった」と話していました。



大城満明さんがJICAの活動報告

大城満明さん(字小波津)が、JICA(海外青年協力隊)での2年間の任務を終え、3月12日、上岡町長に活動報告をしました。大城さんの派遣先はパプアニューギニアで、稲作の普及など農業を指導。大城さんは「主食の輸入米が家計の圧迫となっているため、米の自給率向上を目指しており、今後も人口増加に対する食料保障が課題」と話していました。上岡町長は「この2年間の成果を仕事で活かしてください」と激励しました。



留学生文学賞受賞の留学生が作品集を寄贈

留学生による日本語の新人文学賞である第7回留学文学賞を受賞したハンガリーのベグ・テオドーラさん、モンゴルのバットトルガ・ナイラムダルさん、ベトナムのレ・ファン・パオ・カンさんが3月12日、同賞委員会事務局の新川美千代さんと町役場を訪れ、留学文学賞作品集の第7回までの各5部を町立図書館へ寄贈しました。これに先立ち3人は西原東小学校を訪れ、三線でハンガリー舞曲を披露したり、各国の話をするなどして、3年生の児童らと交流しました。



シマナー料理を食べて元気になる!

県産青果物の「安全・安心」「おいしさ」を広くPRし、消費者に旬のものを味わってもらおうと「県産青果物消費拡大キャンペーン」が3月20日、サンエー西原シティで開催されました。会場では青果物の展示・販売や料理実演などが行われ、西原町耕作放棄地解消対策協議会の出店ブースでは町産のシマナー料理やお菓子の試食がふるまわれました。南城市から家族で訪れたという外間さんは「シマナーのシフォンケーキがおいしかった。作り方を習いたい」と話していました。

